

令和6年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

多様性も認めあい、誰もが「個」の自分で 生きられるよう、寄り添い共に歩む居場所創りをする

北海道白老町 特定非営利活動法人NPOウテカンパ

アイヌのルーツを持つ代表が、故郷白老町で、民族、世代、性別、障がいの有無を超えた「多文化共生」を目指し、2020年に設立。



アイヌ文様刺繍講座

代表自身の経験（いじめ、DV、離婚、母子家庭、癌など）を通し、サードプレイスの重要性を感じ、助産師・看護師・介護専門士な



ママカフェ

ど多様な個をもつスタッフと共に居場所作りをしてきた。

設立当初より、伝承事業として「アイヌ文様刺繍講座」、母子に寄り添う「ママカフェ」、介護予防・健康促進「まちの保健室」を続けてきた。地道な活動が認められ、2021年より、白老町地域女性活躍推進事業受託、2022年から介護予防サロン・認知症カフェ受託、2023年より手話通訳講師派遣事業を受託している。

白老町地域女性活躍推進事業では、ジェンダー指数が世界の中でも低い日本、日本の中で最下位の北海道ということを念頭に入れ、女性たちを孤立させない取り組みを行っている。助産師がいるママカフェ、気軽に健康相談できる看護師がいるげんきカフェ、一歩を





介護予防サロン・認知症カフェ



ピリカメノコ祭

踏み出すキッカケづくりとなる講座等を展開。自分を大事にすることにつながる性教育にも力をいれている。参加するたびに表情が明るくなり、一步を踏み出そうとする女性たちに寄り添いサポートを続けている。

事業始めと事業終わりの月にはピリカメノコ祭と題し、女性たちが挑戦する場を用意。それぞれが自分で作った小物や体験コーナー、ステージ発表で輝いている。

介護予防サロン・認知症カフェでは地域住民の集いの場となっており、コミュニティナース（看護師・介護専門士）による情報提供、介護・認知症の知識を学びに加え、軽スポーツ、調理などを交えて好評を得ている。知っているようで知らない認知症のことを知ることでも不安解消となり心の負担の軽減につながる。知る、予防、実行の流れを作ること、また、参加者の声を聞き、やりたいこと、知りたいことを取り入れ、一緒に作っていくサロンとなっている。

手話通訳講師派遣事業は、白老町手話言語条例制定に向け動き、制定後は町内小中学校、役場、町民向けに手話講座を展開。また、情報保障として手話通訳を派遣。情報弱者の聴



手話講座

覚障がい者が取り残されない社会の実現を目指し、手話、聞こえない障がいについて普及活動をしている。また今後は、高齢に伴い聞こえが悪くなり引きこもりがちになる高齢者の情報保障を視野に入れていく。（会議出席時の記録など）

独自事業として、福祉を考えるキッカケづくりの場「ふくし×まちづくりフェア」を毎年開催。福祉は身近にあることを知る機会とし、1回目は会場に多様なカフェをつくり気軽に参加できるようにした。（手話カフェ、ジョブカフェ、性教育カフェのほか、納棺体験など）2回目はモルック体験を開催し、10代と80代が同じチームとなり世代間交流を図った。

国の補助金事業がらぼう商店街の補助金



チャレフェスアイヌ着物試着

を申請し「チャレフェス×シノツ・チャレ」を開催。それぞれのブースをクリアした数で景品を用意。商品は全て白老町内の特産にし、その場で渡すのではなくチケットを渡し、実際に店舗に出向き、白老を周遊する仕組みを作った。アイヌ文化体験、手話体験、町内の作家による体験ワークも取り入れた。

白老町には働き手として外国人が増えていることから、交流の機会を作っている。だれでも食堂世界バージョンとし、「チャムチャムザワールド」(チャムチャムはアイヌ語でモグモグ食べるという意味)を開催。会館近くの海岸の清掃をし、チャム通貨と交換。町内在

住の外国人が母国の料理を作り、ブースを設置。チャム通貨で買う時はその国の言葉。"こんにちは"と"ありがとう"を使うことをルールとし、「清掃」と「食」で町民との交流を図った。大人から子どもまで多様性を知る機会となった。

3月末現在357人の外国人が在住。技能研修生で来ている外国人が勤めている企業等に働きかけを続け3年目にして協力いただき、告知ができた。徒歩で来られる距離の寺の協力を得て、だれでも食堂を開催。ベトナム人16人、中国人留学生3人と交流の場を持つことができた。食事をした後に作成した



チャムチャムザワールド

カードを使い、ベトナム語を覚えてもらった。今後は防災を絡めたチャムチャムザワールドで、外国人交流の企画を予定している。

カルチャーとスポーツを同時に楽しめる「ウテカンパススポーツ&カルチャーフェスティバル」を開催。町内の団体の協力を得て、白老発祥のゲーリング大会「デフサッカー」(耳の聞こえない人たちのサッカー)読み聞かせ、ストリート連句、忍者体験などができ、スタンプリーをすることで全種目に参加する仕組みを作った。今年度は「チュクフェス」スポーツの秋、芸術の秋、食の秋、読書の秋を一度に満喫し、開催予定。隣の北洋大学に在学している留学生が企画から参加したいと要請があり、より幅広い視点から考えたいイベントになると考えている。

設立2年目から、町内のNPOや団体から声がかかりコラボが実現している。行政ともよい関係で連携ができており、教育委員会などコラボさせていたideている。

ウテカンパはアイヌ語で手を取り合う、手をつなぐといった意味があり、町内の皆さんと共に手を取り合い未来へ進みたいと言う想いから名付けた。現在、町内のみならず、近隣市町からお声かけいただき、手を取り合い活動している。

(特定非営利活動法人NPOウテカンパ)

代表理事 田村直美